



自然災害
伝承碑



災害
伝承

Mo

災害伝承 DATA

所在地：長野県上伊那郡飯島町本郷

緯度・経度：北緯 35 度 39 分 58.6 秒

東経 137 度 56 分 17.9 秒

伝承形式：石碑・石塔・石仏

種類 / 要因：洪水・湛水 / 集中豪雨

災害発生：1715 年（正徳 5 年）6 月 18 日

建立時期：1929 年（昭和 4 年）

指定等：人と暮らしの伊那谷遺産

周辺地形：丘陵地

自然災害伝承碑掲載：令和 2 年 12 月 16 日

国土地理院サイト：<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>



観光情報はこちら

言い伝え・伝説

与田切川右岸の一段小高い場所に石碑が立っています。碑面には『昔ここに「隅の木」と呼ばれた栗の木があり、「未満水」の時、身一つで逃げてきた人々が木陰に集まって危険を脱した』と漢文体で刻まれ、災害を後世に伝えています。

周辺案内

人・自然・文化・産業の調和の取れ、緑輝くふれあいのまち飯島町。飯島町は長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、西は中央アルプス、東は南アルプスに囲まれた自然豊かなふたつのアルプスが見える町です。四季の移ろいを色濃く感じて暮らすことのできる理想の移住スポットとして注目されています。